



「臨床工学技士ポケットブック」 森實雅司 [編]

とうとう臨床工学技士向けのポケットブックが登場した。「待っていました!」というのがこの本を手にした時の率直な感想である。医師や看護師がポケットブックを折に触れて開いたり白衣のポケットに入れていたりする姿は、若い頃羨ましかった。自身の手帳に学んだことをまとめていたが、そのベースとなる知識は耳学問ではよろしくない。根拠を求めると、多くの医学書を必要とするし非効率である。そこで、臨床工学技士のエキスパートが根拠に基づき必要な知識、業務上の留意点をポケットブックにまとめたのが本書である。

「臨床工学」は学問であり、科学である。臨床工学を実践し、医療に貢献するのが臨床工学技士の使命である。臨床工学には施設間格差を生まない幹の部分と患者や医療機関の個性性に基づく枝葉の部分があるが、まさに本書は学問としての幹の部分が既に記載されており、枝葉の部分は自由に書き込めるようになっている。したがって、臨床工学技士各々の最適なポケッ

トブックが完成されるようになっているのである。

本書のもう1つの特徴は、臨床工学技士業務を網羅的に記載されていることである。

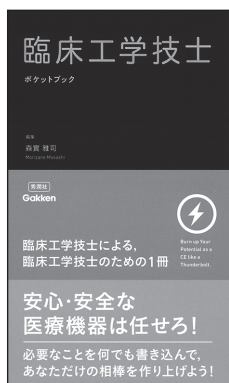
2019年4月から我々臨床工学技士には時間外労働時間の上限が設定されており、2024年4月からは5年間の猶予期間が設けられていた医師の時間外労働時間の上限も設定される。いわゆる「医師の働き方改革」が、これまでも、これからも必要となってくる。とかく医師からのタスク・シフト/シェアの推進が注目されているが、臨床工学技士同士のタスク・シフト/シェアも必要である。

総合病院においては、臨床工学技士の夜勤化が進んでいる。人員体制や業務量の問題から、分野ごとに担当の臨床工学技士を配置できる医療機関は稀である。多くの医療機関では、臨床工学技士の夜勤者は1名ないし2名程度であり、少人数で多種多様な業務を行うことが求められている。医療の進歩は早く、またそれぞれの業務は複雑である。さらにその業務遂行においては、臨床工学技士の専門性を発揮しなければならない。

若手、ベテラン限らず、夜勤を行う臨床工学技士にとって、本書は業務のヒントを与え、安全な業務に寄与するはずである。ベテラン臨床工学技士にとっても、ちょっと周りには聞きにくい基礎的な内容が、本書にはしっかり書いてある。

本書を白衣のポケットにそっと入れて、24時間365日患者に貢献していただきたい。

(横浜市立市民病院 臨床工学部 相嶋一登)



Gakken
464ページ
2023年8月発行
定価：3,850円(10%税込)



臨床工学技士必携! 血液浄化療法や呼吸療法など全48項目収録。それぞれの業務で必要な物品や手技、ポイントや業務の流れなどを書き込めるメモ欄付き! 自施設の方法に合わせて自分だけのオリジナルポケットブックを作ろう。